PROGRAM

ボワルデュー／ハープとフルートのためのソナタ
変ホ長調

マラン＝マレ／スペインのフォリア（フルートソロ）

ジャン＝フランセ／5つの小さなデュオ

フランシス／パバンとブラン（ハープソロ）

グリーディ／古いゾルチコ（ハープソロ）

ロッシーニ／アンダンテと変奏曲

ベートーヴェン／回転時計のためのアダージョ
第1番 WoO. 33－1

シュポア／ソナタコンチェルタンテ
「モーツァルトの主題によるポプリ」

インタビュアー　杉山　守

四季のコンサート　春

1992年4月20日（月）6:45PM
浜松市民会館ホール
主催：浜松音楽友の会

プロフィール

工藤重典

札幌生まれ。桐朋学園大学在学中は故林リリ子、峰岸壮一両氏に師事。1975年パリ国立高等音楽院に入学、ジャン＝ピエール・ランパル氏に才能を見出される。1978年、第2回パリ国際フルートコンクールで第1位。1979年パリ国立音楽院を首席で卒業。翌1980年、第1回ジャン＝ピエール・ランパル国際フルートコンクール第1位大賞受賞。その後、パリを拠点にヨーロッパは勿論のこと、アフリカ、西ヨーロッパ、南北アメリカ各地でソリストとして活躍。1988年村松賞受賞。同年ソニーミュージックより発売された「ランパル・工藤夢の饗宴」が"文化庁芸術作品賞"を受賞。世界のトップアーティストだけを送り出す≪ソニークラシカル≫のレーベルでアメリカ及びヨーロッパ全域で発売されている。現在、ジャン＝ピエール・ランパル国際フルートコンクール審査員。パリ・エコール・ノルマル・フルート科教授。

吉野直子（ハープ）

ロンドン生まれ。6才よりロサンゼルスでスーザン・マクドナルド女史（インディアナ大学教授）に師事。

1981年、第一回ローマ国際ハープ・コンクール第2位、1985年7月第9回イスラエル国際ハープ・コンクール優勝（参加者中最年少）、1988年1月「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団と協演、以来日本の代表的管弦楽団と協演している。

海外では1986年イタリアのストレーザ音楽祭出演、87年ニューヨークでデビュー・リサイタル、88年には「クラシック・エイド11」（国連難民救済チャリティーコンサート）、小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会、メニューイン音楽祭などで世界的な指揮者と協演している。

1985年アイオン賞、1987年村松賞、1988年芸術祭賞、1989年にはモービル音楽賞奨励賞、1991年には文化庁芸術選奨新人賞をそれぞれ受賞している。

工藤重典と吉野直子の夕べ

ボワエルデュー：ソナタ変ホ長調

フランソワ＝アドリアン・ボワエルデュー（1775-1834）は、19世紀フランスのオペラ・コミックの代表的な作曲家で、『バグダードの太守』や『白衣の婦人』などで知られている。一方で彼はかなりの数の器楽作品も残し、その中でハープを重用している。この「変ホ長調」のソナタは、1807年頃に書かれた2曲の「作品8」の第2曲で、ピアノまたはハープ伴奏のヴァイオリン・ソナタである。ヴァイオリンを省いてハープのみでの演奏も可能な音楽で、ヴァイオリン（今夜の演奏ではフルート）の声部はオブリガード風に書かれている。
第1楽章　アレグロ、変ホ長調、4／4拍子。流麗で魅力的な旋律をもつソナタ形式の楽章で、展開部はハ短調への傾きを聴かせる。
第2楽章　アンダンティーノと変奏、変ホ長調、4／4拍子。ハープが独奏して始まり、後半はヴァイオリンが助奏する可憐な主題と、その5つの変奏曲。第4変奏ではアンダンテに変わるが、調性はつねに変ホ長調を保っている。

スペインのフォリア／マラン＝マレ

彼が出版したヴィオラ・ダ・ガンバのための曲集第2巻（Pdris 1701）の初めにこのスペインのラ・フォリアのヴァリエーションを見つけることができる。
彼は、ガンバの名人としてルイ14世紀及び15世紀のもとで活躍した人で、他にオペラなどを書いている。
当時の作曲家はそれほど演奏楽器を特定した訳ではなく、いくつかの他の楽器（とりわけフルート）で演奏したり、又調性を変えたり、演奏家の自主的な創造力にもとずいて彼らの作品が演奏されることに違和感はなかった。
曲はテーマとなる当時大変有名だったフォリアのサラバンドにもとずき、25の変奏曲から成る。

フランセ：5つの小二重奏曲

ジャン・フランセ（b. 1912）は現代フランスの作曲家で、ラヴェル風の洗練と、プーランクやストラヴィンスキーとも共通する皮肉や風刺性を合わせた作風で知られる。この「小二重奏曲」は、フランスのハープとフルートのデュオ、マリー＝クレール・ジャメとクリスチャン・ラルデのために書かれた音楽で、以下の5曲が組曲風に編まれている。
第1曲　「前奏曲」、プレスト、イ長調、4／4拍子。8分音符が連続する細かなフレーズが、性急さと敏感さを伝える。
第2曲　「牧歌」、モデラート、ハ長調、3／4拍子。付点リズムののびやかな音楽。
第3曲　「カンツォネッタ」、ヴィヴァーチェ、変イ長調、2／4拍子。「歌」という題名とは裏腹に、これも機敏な動きに終始する。
第4曲　「夢」、アンダンティーノ、変二長調、3／4拍子。浅い眠りの中での捉え所のない夢を想わせる音楽。
第5曲　「ロンド」、アレグリッシモ、ヘ長調、4／4拍子。無窮動のようすにすばしこいリズムの運動性とその饗宴。

フランシスク　　パバンとブランル

フランシスク（1570-1605）はフランスのリュート奏者。1600年に出版された「Le Tresor d Orphie」という彼の作品集のなかのリュートの為の踊りの曲、パバーヌとブランルを、フランスのハーピスト、グランジャニーがハープの為に編曲したものです。パバーヌは16世紀はじめのスペインの宮廷ダンス風のゆっくりと堂々とした曲で、ブランルは華やかな踊りを表現しています。

グリーディ　　古いゾルチコ

グリーディ（1886-1961）はスペインのバスク地方のオルガン奏者でもある作曲家。フランス、ベルギーなどで学び、ゾルチコとはスペイン北部のバスク地方の民謡や舞踏のことです。この作品は8分の5拍子で書かれ、独特のリズムと情熱的な雰囲気がスペインらしさを出していて、数少ないスペインのオリジナルのハープ作品のひとつです。

ロッシーニ／アンダンテと変奏曲

イタリア・オペラ中興の祖として知られるジョアッキーノ・ロッシーニ（1792～1868）は、器楽の分野でも豊かな才能を示し、すぐれた作品を残している。1820年頃に作曲されたヴィオラとハープのための曲もその一つで、いかにもロッシーニらしい南欧的な明かるくのびやかな旋律と技巧的な華やかさを持ち、種々の楽器用に編曲されている。

回転時計のためのアダージョ第1番／ベートーヴェン

J．ダイム伯爵のために1794年から1800年にかけて5曲作曲Wo 0331～5 u。
当時彼が持っていたフルート時計（自動楽譜）のために書いた。
第1番は、アダージョ・アッサイヘ長調、中でも一番優美で美しくまるで歌曲のようなメロディーは絶品と言える。

シュポア：ソナタ・コンチェルタンテ「モーツァルトの"魔笛"の主題によるポプリ」作品114

ヴァイオリン奏者でもあった作曲者ルイス・シュポア（1784-1859）が、妻が当時ドイツ最高のハープの名手だったドレッテ・シャイドラーと共演するために作曲した作品。
第1楽章　アレグロ・ヴィヴァーチェ、ニ長調、4／4拍子。題名通りに2つの楽器を協奏的な華やかさで共演させた楽章で、ことにハープに与えられた名人技は耳を奪う。
第2楽章　「モーツァルトの"魔笛"の主題によるポプリ」。ポプリとは「接続曲」のことで、『魔笛』からの以　の親しいメロディが連続して聴かれる。パミーナのアリア「愛の喜びは露と消え」（アンダンテ、　ヘ短調6／8拍子）。3人の童児の三重唱「お二方には二度目のお越し」（アレグレット、イ長調、6／8拍子）。パパゲーノのアリア「恋人か女房があれば」（アンダンテ～アレグレット、ニ長調、2／4拍子と、変奏曲）。二人の武人の場面の音楽（ポコ・アダージョ、ロ短調、4／4拍子）。モノスタトスのアリア「恋すれば誰でも楽しいものだ」（アレグロ、ニ長調、2／4拍子）。